



Save the Children Of Buruli Ulcer!
-難病への挑戦- ブルーリ潰瘍の子供たちを救え!



神戸国際大学キリスト教センター通信 2024年8月20日 ブルーリ潰瘍の子供たちを救え! ありがとう 25年_②

キリスト教センター長 ミカエル 藤倉哲哉

日本ではほとんど聞いたことがありませんが、ブルーリ潰瘍という病気はマイコバクテリウム・アルセランスという結核菌の仲間の細菌が惹き起こす感染症です。アフリカを中心に流行しており、水生昆虫などが媒介して皮膚の傷などから感染するのではないかとされているものの、感染経路は明らかになっていません。また外科手術で幹部を切除する他には決定的な治療法がなく、特効薬やワクチンもまだ開発されていない未知の部分が多い病気です。

この菌はヒトからヒトに感染することではなく、感染力もそれほど強くありませんが、川や池などで遊ぶ子供たちが虫刺されなどの傷から感染することが多いと考えられています。

感染の直後で傷や病巣が小さなうちに治療を受ければ重症にならずに完治するのですが、感染の初期は痛みや痒みを感じる事がほとんどないので、そのまま放置して治療が遅れてしまう場合があります。皮膚から筋肉に広がった病巣の切除や手や足の切断など、大がかりな手術が必要になることも少なくありません。

特に手や足の切断は、その後の生活にも著しい支障をきたすので、労働を担う若者や成人の後遺障害はそれまでの仕事を続けることが困難となるケースもあり、経済生活にもおおきな影響を残します。そこで、有効な予防ができていないブルーリ潰瘍については、何より早期発見と早期治療が必須であるとされています。

また裸足で水辺に近づかない、ケガをした傷口をすぐに消毒する、放置せずに治療を受けるなど、日常生活での注意を払うことで一定程度の感染を防げるのですが、現地では日本のようにテレビなども広く普及していないので、人びとはブルーリ潰瘍の十分な知識があるとはいえない状態です。

このため、現地の保健当局は町から離れて情報が届かない集落や病院へ出向くことが困難な地域などに、医師や看護師のチームを派遣する巡回診療を行って早期発見に努めています。啓発や広報に関しては、できるだけ多くの人びと、特に患者が多い子供たちにブルーリ潰瘍について知らせるため、わかりやすい写真やイラストを多用したポスターを掲示したり、無料の映画鑑賞会を開いて大勢が集まった際に病気について知らせたりするなどの工夫をしています。

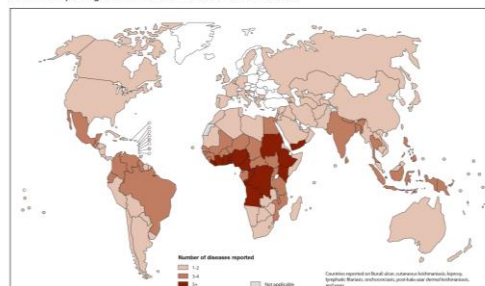
* * * * *

ひとくちメモ ボランティア

いまでは誰でもがよく知っている「ボランティア」ですが、その意味は？と問うと「無償の奉仕活動」と答える人が多いようです。Volunteerの語源はラテン語の自由意志から来ており、誰にも強制されないで進んで志願するところから、報酬を求めず社会に貢献する奉仕活動に自らすすんで参加することとされるようになりました。

日本では阪神淡路大震災をきっかけに東日本大震災、西日本豪雨など災害の復旧支援や地域活性化イベントの運営などのほか、最近では犬や猫の保護のように身近に関心をもって活動に参加する人びとも増えたおかげでボランティアは社会に広く定着したといえるでしょう。

Countries reporting cases on at least one skin NTD in 2017-2021



ブルーリ潰瘍患者の分布 WHOのHPより

